

特集 ファミリービジネス

インタビュー

経営学の視点から見たファミリービジネスの長所・短所

(話し手) 早稲田大学大学院商学研究科 准教授 入山 章 栄

(聞き手) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授 大橋 和彦

<証券アナリストジャーナル編集委員会小委員長>

目 次

1. 経営学の視点から見たファミリービジネス
2. ファミリービジネスの定義と特徴および実例
3. 日本のファミリービジネスの現状と課題および解決策
4. 日本のファミリービジネスの今後の展望

1. 経営学の視点から見たファミリービジネス

大橋 この数年、ファミリービジネスは、ファイナンスや経済学の分野でも研究が進んできた。例えば、ファイナンス理論では、ファミリーの保有株比率と企業価値の関係が論じられているが、経営学の視点から見たファミリービジネスは、何がポイントになるのかお話しいただきたい。

入山 海外のファミリービジネスやガバナンスは、ファイナンス理論に大きく影響を受けている。ファミリービジネスにおける重要な論点はPrincipal-agent theory (以下、エージェンシーセオリー) であるが、それ以外にも、経営学ならではの視点もある。一つは、エージェンシー問題以外



大橋和彦 氏

の理論を、エージェンシー問題と関連させて考えることもなされている。Socioemotional theory (社会情緒理論) という理論では、オーナー経営者は、所有するアセットを心理的にアタッチするとしており、感情的な側面を取り入れた考え方をする。

入山 章栄 (いりやま あきえ)

慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了。三菱総合研究所を経て、2008年に米ピッツバーグ大学経営大学院よりPh. D. を取得。同年より米ニューヨーク州立大学バッファロー校ビジネススクール助教授。13年から現職。Strategic Management Journalなど国際的な主要経営学術誌に論文を発表。15年11月に3年ぶりの著書『ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学』を刊行。